

# 「持続可能な開発(発展)」の定義

## (Sustainable Development: SD)

「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」

“Our Common Future”(1987年「ブルントラント委員会最終報告書」より)

即ち、現代の世代が、将来の世代の利益や要求を充足する能力を損なわない範囲内で環境を利用し、要求を満たしていくとする理念と言つていい。

ここでは、環境と開発は互いに反するものではなく、共存しうるものとしてとらえ、環境保全を考慮した節度ある開発が重要であるという考えに立っている。

# SDの背景と歴史的経緯

1962年 ・レーチェル・カーソン『沈黙の春』

- ・急速な人口増加と近代産業化(大量生産－大量消費－大量廃棄)に伴う様々な地球環境問題が表面化し始める

1972年 ・「国連人間環境会議」がスウェーデンのストックホルムで開かれ、『人間環境宣言(ストックホルム宣言)』が採択された。

- ・ローマクラブ報告書『成長の限界』

1983年 ・「環境と開発に関する世界委員会」(WCED: World Commission on Environment and Development)設置を決定。委員長は当時ノルウェーの首相であったG.H.ブルントラント。→ブルントラント委員会と呼ばれる。

1987年 ・ブルントラント委員会最終報告書『Our Common Future』を発表。

1992年 ・「環境と開発に関する国連会議(地球サミット)」がブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれ、『環境と開発に関するリオ宣言』が採択された。

2002年 ・「持続可能な開発に関する世界サミット」が南アフリカのヨハネスブルグで開催された。

# 『Our Common Future』

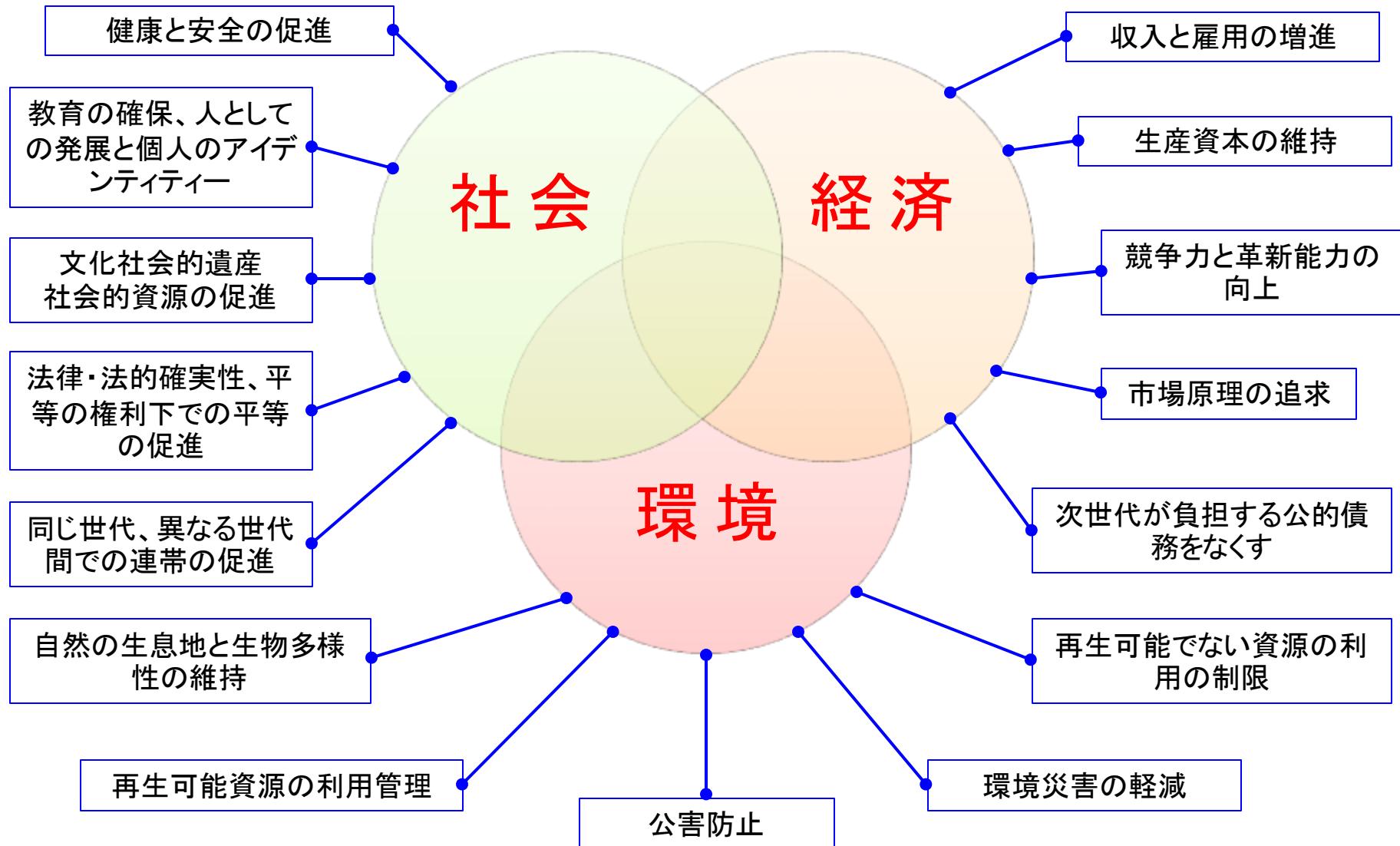
“我ら共有の未来”(邦訳『地球の未来を守るために』)

- 1) 持続可能な開発とは、未来の世代が自分たち自身の欲求を満たすために能力を減少させないように(without compromising the ability of future generation) 現在の世代の欲求を満たすような開発である。
- 2) 持続的な開発は、地球上の生命を支えている自然のシステム－大気、水、土、生物－を危険にさらすものであってはならない。
- 3) 持続的開発のためには、大気、水、その他自然への好ましくない影響を最小限に抑制し、生態系の全体的な保全を図ることが必要である。
- 4) 持続的開発とは、天然資源の開発、投資の方向、技術開発の方向付け、制度の改革がすべて一つにまとまり、現在および将来の人間の欲求と願望を満たす能力を高めるように変化していく過程をいう。

「持続可能な開発」の概念を提唱し、広く世界の支持を得た。

- ◇ 自然生態系の保護
- ◇ 未来世代の利益を守る

# 持続可能性に関する三つの側面



(平成23年版環境白書より)